倶多楽火山

○大正地獄の熱泥水噴騰活動

2011年２月以降も穏やかな噴騰が続いていたが、４年目をむかえた５月には休止期間が長くなり、５月16日の噴騰を最後に現在（５/31）まで噴騰は起こっていない（図２）．その反面、5月13日以降は地動レベルの高い状態が続き、大沼川会合部の温度も高く、熱水の流出が続いていることが分かる（図２）．

５月13日に始まる熱水流出は，これまでにも観測されていた流出量の周期的変動（約１時間）を示す地動振幅変化を伴い、５月16日に小規模な噴騰が起こった．

これに対し、５月23日から始まり31日頃まで続いた熱水流出は噴騰に至らずに終わった．この流出に伴う地動振幅は単調に減少を示し、同じような傾向は会合部の温度にも認められ、流出量が時間とともに減少したことを示す．

一連の噴騰活動が始まる前には、微量な熱水の間欠的な流出が知られており、５月下旬以降の状況は噴騰活動の終息を伺わせる．

その反面、2010年末の日和山噴気温度は、依然として、135℃前後と高温な状態にある．また昨年の同時期にも数日つづいた熱水流出が終わったあと、規模の大きな噴騰が起こっており、終息と判断するには早計であろう．

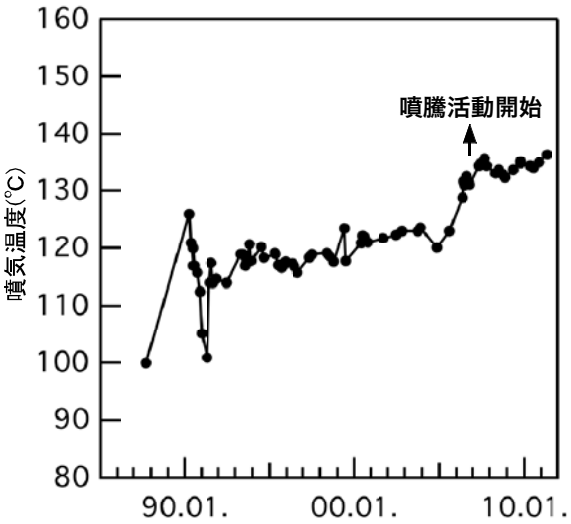

図1．日和山噴気孔温度の経年変化

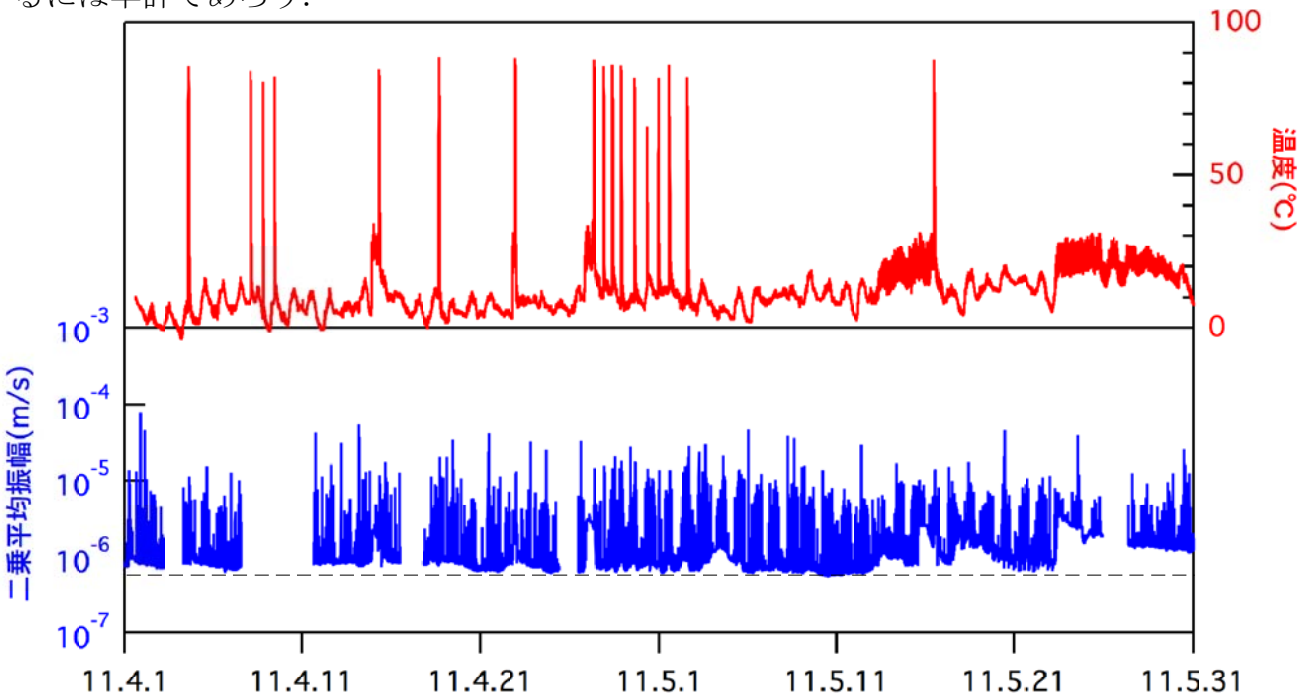

図２．二乗平均上下動振幅（青線）及び大正地獄流出沢と大湯沼川会合部の温度（赤線）の時間変化．赤実線のパルス変化は熱泥噴騰に伴い熱水流失を示す．

（大島・前川・安孫子）